

福岡北九州高速道路公社
個別施設計画（道路施設）

令和2年3月31日
福岡北九州高速道路公社

目 次

1. 道路施設の現状と課題	1
1) 橋梁	
2) トンネル	
3) 大型の構造物等	
3-1) 大型カルバート	
3-2) 門型標識等	
2. 道路施設のメンテナンスサイクルの基本的な考え方	2
3. 計画期間	4
4. 対策の優先順位の考え方	4
1) 橋梁	
2) トンネル	
3) 大型の構造物等（大型カルバート・門型標識等）	
5. 施設の状態・対策内容・実施時期・対策費用（別添 点検計画・修繕計画）	4
年度毎の点検進捗状況	5
①橋梁点検結果	6
②トンネル点検結果	7
③大型カルバート点検結果	8
④門型標識等点検結果	9
【別添】点検計画・修繕計画	10

1. 道路施設の現状と課題

1) 橋梁

福岡北九州高速道路公社が管理する福岡高速の橋梁は令和2年3月31日現在142橋であり、建設後の平均経過年数は約20年、また、建設後40年を超える橋梁数の割合は、現在約1%で、10年後は約33%、20年後には63%を超えるため、平成24年度から令和13年度まで老朽化・予防保全対策を実施している。

一方、北九州高速の橋梁は令和2年3月31日現在189橋であり、建設後の平均経過年数は約40年、また、建設後40年を超える橋梁数の割合は、現在約70%で、10年後、20年後は約96%を超えており、高齢化が急速に進んでいく状況であるため、平成15年度から平成20年度において大規模補修事業を実施した。

引き続き、定期点検による確実な状態把握（早期発見）及び、点検結果に基づく確実な対策（早期補修）を講じていく。

2) トンネル

福岡北九州高速道路公社が管理する福岡高速の供用中のトンネルは令和2年3月31日現在2本であり、建設後の平均経過年数は約10年、また、建設後40年を超えるものの割合は、現在0%で、10年後、20年後も0%である。

一方、北九州高速の供用中のトンネルは、令和2年3月31日現在21本であり、建設後の平均経過年数は約50年である。また、建設後40年を超えるトンネル本数の割合は、現在100%で、高齢化が急速に進んでいく状況であるため、平成15年度から平成20年度において大規模補修事業を実施した。

引き続き、定期点検による確実な状態把握（早期発見）及び、点検結果に基づく確実な対策（早期補修）を講じていく。

3) 大型の構造物等

3-1) 大型カルバート

福岡北九州高速道路公社が管理する福岡高速の大型カルバートは令和2年3月31日現在7箇所であり、建設後の平均経過年数は約20年、また、建設後40年を超えるものの割合は、現在14%で、10年後も14%だが、20年後には43%を超える。

一方、北九州高速の大型カルバートは令和2年3月31日現在10箇所であり、建設後の平均経過年数は約35年、また、建設後40年を超えるものの割合は、現在70%で、10年後も70%、20年後には90%となり、高齢化が急速に進んでいく状況である。

引き続き、定期点検による確実な状態把握（早期発見）及び、点検結果に基づく確実な対策（早期補修）を講じていく。

3-2) 門型標識等

福岡北九州高速道路公社が管理する、福岡高速の門型標識等は令和2年3月31日現在144基（門型式（オーバーヘッド式）の道路標識89基、道路情報提供装置55基）であり、建設後の平均経過年数は約20年、また、建設後40年を超えるものは、現在0%だが、10年後には約31%、20年後には60%を超える。

一方、北九州高速の門型標識等は令和2年3月31日現在83基（門型式（オーバーヘッド式）の道路標識53基、道路情報提供装置30基）であり、建設後の平均経過年数は約30年、また、建設後40年を超えるものは、現在18%だが、10年後には約78%、20年後も78%を超える。

引き続き、定期点検による確実な状態把握（早期発見）及び、点検結果に基づく確実な対策（早期補修）を講じていく。

2. 道路施設のメンテナンスサイクルの基本的な考え方

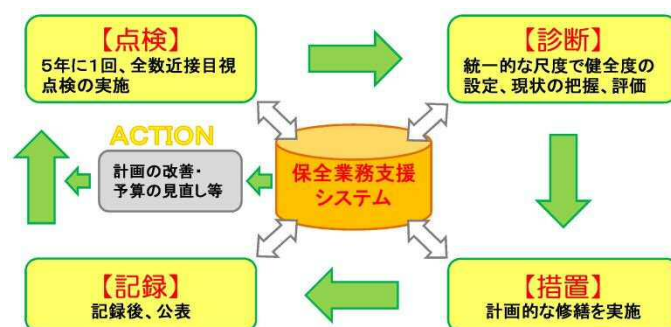
橋梁、トンネル、大型の構造物等の点検については、下記の定期点検要領等に基づき、5年に1度、近接目視による点検を実施し、結果については、下記4段階に区分し集計する。緊急対応が必要な損傷は、速やかに必要な措置を実施するとともに、その他の損傷は優先度を設定し、計画的に補修・補強等を実施する。

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

（トンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示（平成26年国土交通省告示第426号））



■ 定期点検(近接目視)実施状況



■ メンテナンスサイクルイメージ

定期点検要領等

- ・道路構造物の点検要領 (福岡北九州高速道路公社 H19.4)
- ・道路橋定期点検要領 (国土交通省道路局 H31.2)
- ・道路トンネル定期点検要領 (国土交通省道路局 H31.3)
- ・シェッド, 大型カルバート等定期点検要領 (国土交通省道路局 H31.2)
- ・門型標識等定期点検要領 (国土交通省道路局 H31.2)

また、これら修繕等に係る事業は、国土交通大臣による「指定都市高速道路に係る料金及び料金の徴収期間の認可」に基づき実施しており、下表のとおり事業費が定められている。

「指定都市高速道路に係る料金及び料金の徴収期間の認可」に基づく事業費

福岡高速 (平成24年7月 認可)

	維持管理費	維持修繕費
2019年度	24.91億円	66.18億円
2029年度(10年後)	25.06億円	64.91億円
2034年度(15年後)	24.90億円	36.11億円
2039年度(20年後)	24.73億円	36.11億円

北九州高速 (平成20年10月 認可)

	維持管理費	維持修繕費
2019年度	20.71億円	15.18億円
2029年度(10年後)	20.91億円	15.18億円
2034年度(15年後)	20.84億円	15.18億円
2039年度(20年後)	20.78億円	15.18億円

3. 計画期間

5年に1回の定期点検サイクルを踏まえるとともに、インフラ長寿命化計画(行動計画)の計画期間にあわせ、令和5年度までとする。なお、点検結果等を踏まえ、適宜計画を更新する。

4. 対策の優先順位の考え方

1) 橋梁

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図られるよう必要な措置を講ずる。道路施設の状態(劣化・損傷の状況や要因等)を踏まえつつ、お客様への影響を最小化するよう対策の優先順位を決定する。

2) トンネル

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図られるよう必要な措置を講ずる。道路施設の状態(劣化・損傷の状況や要因等)を踏まえつつ、お客様への影響を最小化するよう対策の優先順位を決定する。

3) 大型の構造物等 (大型カルバート・門型標識等)

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図られるよう必要な措置を講ずる。道路施設の状態(劣化・損傷の状況や要因等)を踏まえつつ、お客様への影響を最小化するよう対策の優先順位を決定する。

5. 施設の状態・対策内容・実施時期・対策費用 (別添 点検計画・修繕計画)

福岡北九州高速道路公社が管理する構造物の数量と平成26年度～平成30年度の点検結果は次頁のとおりとなっている。

年度毎の点検進捗状況

構造物	単位	管理数量	H26年度点検数	H27年度点検数	H28年度点検数	H29年度点検数	H30年度点検数	合計	点検進捗率
橋梁	橋	331	25	59	73	124	50	331	100%
トンネル	本	23	0	0	5	14	4	23	100%
大型カルバート	基	17	2	5	2	4	4	17	100%
門型標識等	基	227	53	49	44	36	45	227	100%

【内訳】

福岡高速

構造物	単位	管理数量	H26年度点検数	H27年度点検数	H28年度点検数	H29年度点検数	H30年度点検数	合計	点検進捗率
橋梁	橋	142	17	43	18	39	25	142	100%
トンネル	本	2	0	0	0	0	2	2	100%
大型カルバート	基	7	2	5	0	0	0	7	100%
門型標識等	基	144	27	32	27	28	30	144	100%

北九州高速

構造物	単位	管理数量	H26年度点検数	H27年度点検数	H28年度点検数	H29年度点検数	H30年度点検数	合計	点検進捗率
橋梁	橋	189	8	16	55	85	25	189	100%
トンネル	本	21	0	0	5	14	2	21	100%
大型カルバート	基	10	0	0	2	4	4	10	100%
門型標識等	基	83	26	17	17	8	15	83	100%

① 橋梁点検結果

【福岡高速・平成26年度～平成30年度】

(単位：橋)

年度	管理数量	点検数	点検結果			
			I	II	III	IV
H26	142	17	1	14	2	0
H27		43	5	38	0	0
H28		18	6	10	2	0
H29		39	19	19	1	0
H30		25	18	7	0	0

【北九州高速・平成26年度～平成30年度】

(単位：橋)

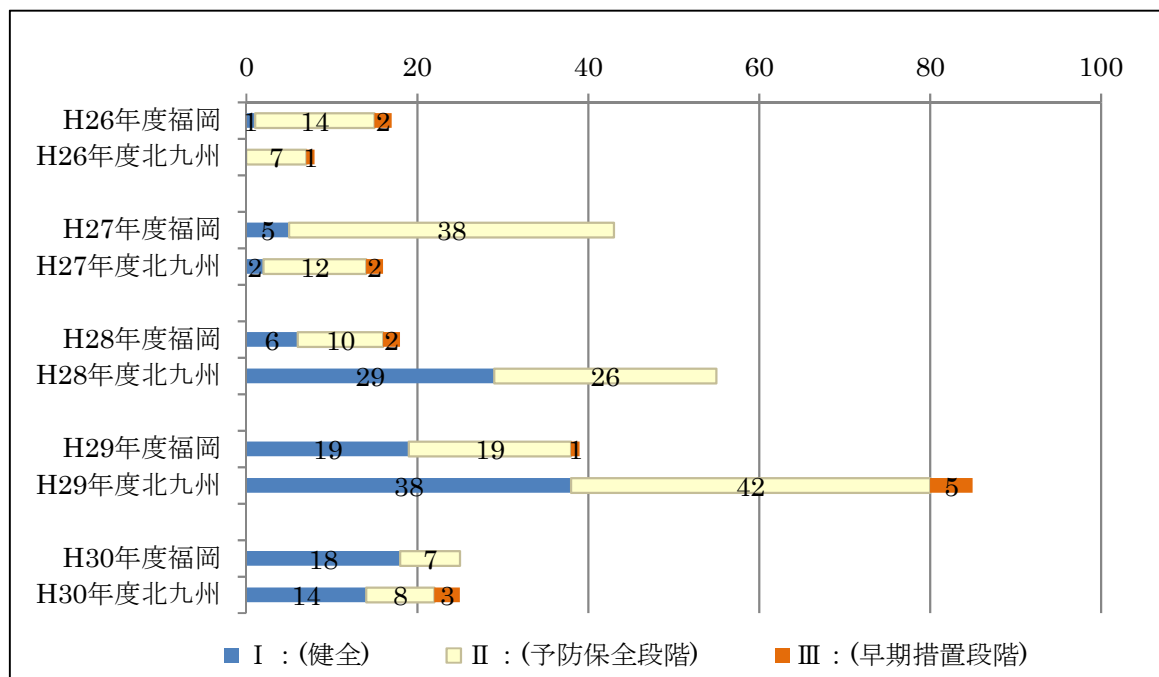
年度	管理数量	点検数	点検結果			
			I	II	III	IV
H26	189	8	0	7	1	0
H27		16	2	12	2	0
H28		55	29	26	0	0
H29		85	38	42	5	0
H30		25	14	8	3	0

※判定区分 I：健全 II：予防保全段階 III：早期措置段階 IV：緊急措置段階

※個別の道路橋点検結果は、P10～(【別添】点検計画・修繕計画(橋梁))を参照のこと

定期点検結果(平成26年度～平成30年度)

(単位：橋)



② トンネル点検結果

【福岡高速・平成26年度～平成30年度】

(単位：本)

年度	管理数量	点検数	点検結果			
			I	II	III	IV
H26	2	0	0	0	0	0
H27		0	0	0	0	0
H28		0	0	0	0	0
H29		0	0	0	0	0
H30		2	2	0	0	0

【北九州高速・平成26年度～平成30年度】

(単位：本)

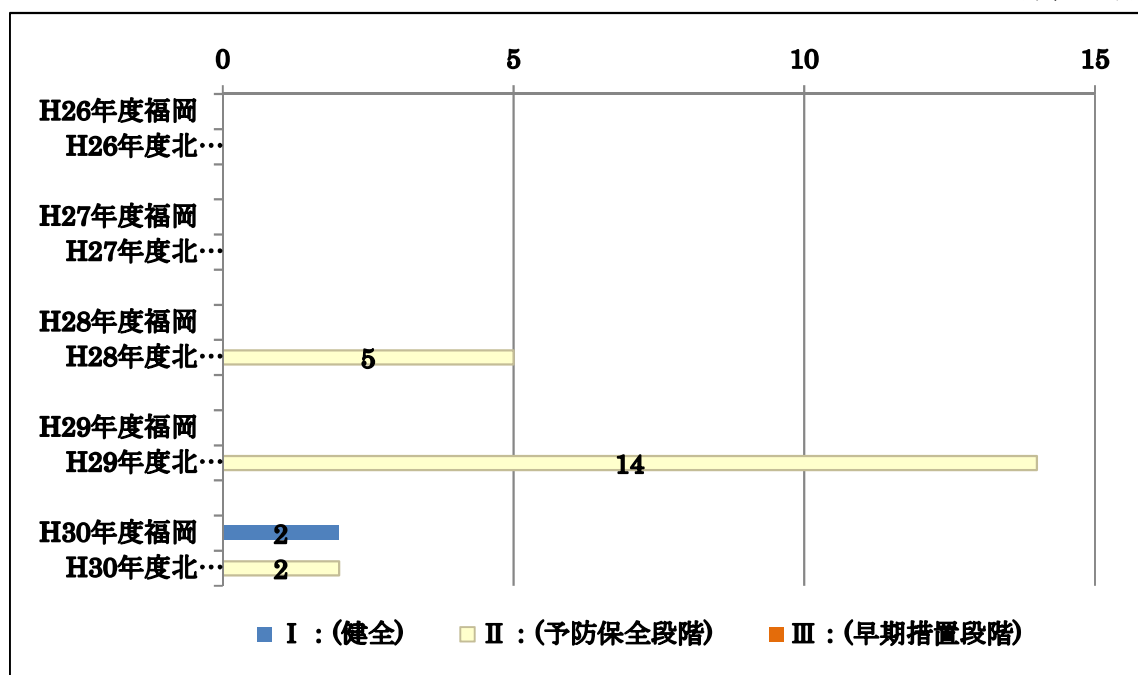
年度	管理数量	点検数	点検結果			
			I	II	III	IV
H26	21	0	0	0	0	0
H27		0	0	0	0	0
H28		5	0	5	0	0
H29		14	0	14	0	0
H30		2	0	2	0	0

※判定区分 I：健全 II：予防保全段階 III：早期措置段階 IV：緊急措置段階

※個別のトンネル点検結果は、P21～(【別添】点検計画・修繕計画(トンネル))を参照のこと

定期点検結果(平成26年度～平成30年度)

(単位：本)



③ 大型カルバート点検結果

【福岡高速・平成26年度～平成30年度】

(単位：基)

年度	管理数量	点検数	点検結果			
			I	II	III	IV
H26	7	2	0	2	0	0
H27		5	0	5	0	0
H28		0	0	0	0	0
H29		0	0	0	0	0
H30		0	0	0	0	0

【北九州高速・平成26年度～平成30年度】

(単位：基)

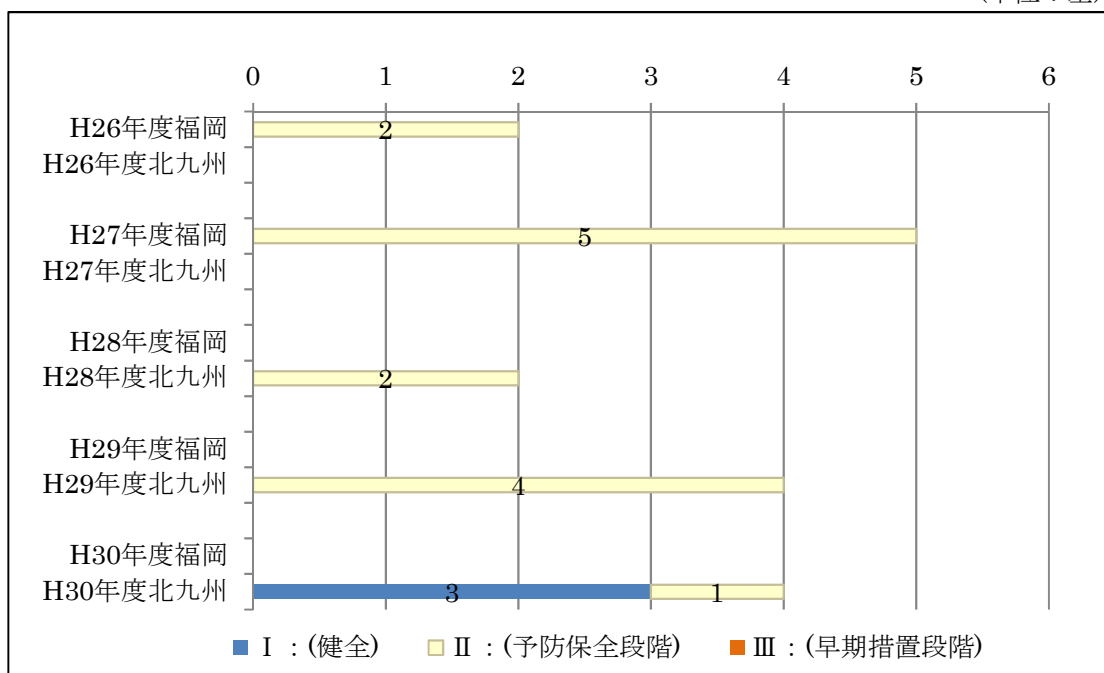
年度	管理数量	点検数	点検結果			
			I	II	III	IV
H26	10	0	0	0	0	0
H27		0	0	0	0	0
H28		2	0	2	0	0
H29		4	0	4	0	0
H30		4	3	1	0	0

※判定区分 I：健全 II：予防保全段階 III：早期措置段階 IV：緊急措置段階

※個別の大型カルバート点検結果は、P22～(【別添】点検計画・修繕計画(大型カルバート))を参照のこと

定期点検結果(平成26年度～平成30年度)

(単位：基)



④ 門型標識等点検結果

【福岡高速・平成26年度～平成30年度】

(単位：基)

年度	管理数量	点検数	点検結果			
			I	II	III	IV
H26	144	27	27	0	0	0
H27		32	31	1	0	0
H28		27	24	3	0	0
H29		28	26	0	2	0
H30		30	30	0	0	0

【北九州高速・平成26年度～平成30年度】

(単位：基)

年度	管理数量	点検数	点検結果			
			I	II	III	IV
H26	83	26	15	11	0	0
H27		17	10	7	0	0
H28		17	3	14	0	0
H29		8	5	3	0	0
H30		15	15	0	0	0

※判定区分 I：健全 II：予防保全段階 III：早期措置段階 IV：緊急措置段階

※個別の施設点検結果は、P23～(【別添】点検計画・修繕計画(門型標識等))を参照のこと
定期点検結果(平成26年度～平成30年度)

(単位：基)

